



A1 倶楽部

2023 新春号

【発行所】

**さとう栄一
後援会総連合会**

〒321-0954
栃木県宇都宮市元今泉5-1-22
TEL.028-662-3300
FAX.028-662-5501

住めば
愉快だ
宇都宮

UTSUNOMIYA

宇都宮市長 佐藤栄一

昨年8月には、多くの皆様から大きな期待が寄せられているLRTがいよいよ開業します。日本初の軌道を一から造る全線新設のLRT事業です。あわせて、「suica」としても使える交通系ICカード「tottra」を活用して、LRT・路線バスや地域内交通を乗り継いで「街ナカ」まで500円以内となる乗継割引制度を実施します。また、脱炭素社会への取組として、公共交通のグリーン化を目指したバスや地域内交通などへの電動車の導入支援制度を創設してまいります。LRT事業の駅西側の延伸については、2026年に着工し、2030年代前半の開業を目指してまいります。

本年も新型コロナウイルス感染症については引き続き万全の体制を整えるとともに、物価高騰に対しても市民や事業者への影響を十分注視し適切に対応し、皆さまの暮らしを守り抜いてまいります。

これらの取組を着実にすすめて、今を生きる市民と次世代の子どもたちが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち「スーパースマートシティ」つのみや」を、全力で創り上げてまいります。

佐藤栄一市長の主な取組

令和4年度

★子育て支援・教育環境の充実

- 子育て世帯へ給付金
コロナ禍の中、食費などの物価高騰に直面する子育て世帯を支援することを目的に、児童扶養手当受給世帯などが対象で、18歳以下の子ども一人当たり5万円を支給いたしました。
- 不妊治療の初回負担ゼロ
不妊治療の保険適用に伴い、市独自の支援制度を創設しました。初回は45万円を上限に自己負担分の全額相当、2回目以降は30万円を上限に保険適用外の治療費の7割相当を助成いたします。
- 全小中学校の体育館にエアコンを設置
市立小中学校全94校の体育館に空調設備の設置を完了しました(※)。県内ですべての小中学校の体育館に空調設備を設置したのは本市が初めてです。(※現在、体育館改修工事中の平石中央小学校については、工事完了後に設置予定)

★移住定住対策

- 移住支援金
東京圏から宇都宮市に移住し、テレワークで就労する方や栃木県の企業情報掲載サイトの求人に応じた方などの要件を満たす場合、最大で100万円の移住支援金を支給します。さらに、18歳未満の子どもを帯同して世帯で移住された場合には、子ども一人につき30万円が子育てで加算されます。
- 市への移住促進プロモーション
東京圏からの移住先としての本市の魅力を売り込むため、移住促進プロモーション映像をテレビCMや東京圏の電車・駅などで放映しました。新幹線で東京駅から最短48分という近さ、LRTが走る街並み、子育て環境や住環境の良さをアピールする内容となっております。

★安全で安心なまちづくり

- 水害に強いまちへ
田んぼダムの普及促進のため、農地所有者や耕作者の協力を頂き、令和4年度までに整備面積1,092ヘクタール、25メートルプール6,500杯以上の貯留量を確保しました。また、新たに河川に監視カメラや水位計を設置し、監視体制を強化しました。

★「農業王国うつのみや」の実現に向けて

- 海道町「いちご団地」における新規参入支援
海道町の農地整備事業において「いちご団地」創設を支援し、6人(区画)の新規就農者を呼び込みました。今後、さらに8区画での新規参入支援に取り組みます。

★健康寿命の延伸・スポーツ振興の推進

- 北西部地域体育施設の整備内容を発表
建設予定地は道の駅うつのみやろまんちっく村の北に位置する約3万3千平方メートル。地域住民をはじめ、子どもから高齢者まで誰もがスポーツや健康づくりを楽しめ、障がいのある方や子育て家族なども利用しやすい施設を2026年に開設します。

令和5年度

★子育て支援・教育環境の充実

- 本市独自の助成金「もうすぐ38(みや)つ子応援金」の支給
出産から育児までの経済的負担に対する支援策として、新たに本市独自の助成金「もうすぐ38つ子応援金」(妊娠8か月の面接時に3万円)を支給します。
- 「こども家庭センター」の設置へ
コロナ禍の中で社会が変化している現在、孤立・孤独や生活の急変など、子育ての悩みも多様化していることから、妊婦や子育て家庭、ヤングケアラーなどを包括的に支援するため「こども家庭センター」を設置します。

●デジタルを活用した適応支援教室「U@りんくす」(ゆーあっとりんくす)の開設

不登校児童生徒の学びの機会を保障し、将来の社会的自立を支援するため、学校やその他の多様な支援につながらない児童生徒が、メタバース(仮想空間)を活用し、自分のペースで興味や関心を生かして活動ができるよう、デジタル適応支援教室「U@りんくす」を開設します。

●児童相談所の設置を検討へ

中核市としての強みを生かしながら、切れ目のない支援が可能となるなど、さまざまな効果が見込まれることから、児童相談所の設置について具体的な検討を進めてまいります。

★移住定住対策

- 東京圏への通勤・通学に係る交通費の助成
本市から東京圏に対して、特に若い世代の人口が転出超過になっている現状等を踏まえ、本市への移住定住のさらなる促進を図るため、本市から東京圏に通勤・通学する際の費用の一部助成を新たに開始します。

★行政サービス

- 「書かない窓口」実現へ
市役所1、2階及び全ての地域行政機関の窓口で、申請書類に氏名や住所を書くことなく手続が可能となるよう、マイナンバーカード等を活用した申請書作成支援システムを導入し、「書かない窓口」を目指してまいります。
- 「共生型の相談窓口」を設置
子ども、高齢者、障がい者など、世代や分野を超えた市民の困りごとが相談できる「共生型の相談窓口」を地域包括支援センターなど市内30か所に設置します。

★「脱炭素社会」を目指して

- 脱炭素化の推進
LRT沿線の脱炭素先行地域における再生可能エネルギーの導入など官民協働の取組の推進や、路線バス・地域内交通・タクシーのEV化等に対する助成制度の創設など、ゼロカーボンシティの実現に向け取り組んでまいります。

★観光交流の推進

- 大谷地区に観光周遊拠点施設
県道の拡幅工事に伴い旧大谷公会堂を解体し、旧市営大谷駐車場と隣接地に移築・復元いたします。合わせて、観光案内等を行うビジターセンターや屋外イベントにも利用できる多目的スペース、駐車場を整備し、新たな観光・周遊の拠点として本年11月にオープンいたします。

LRT 8月にいよいよ開業へ

うつのみやの新時代が始まる

JR宇都宮駅東口地区がまちびらき



駅西側のLRT整備区間を公表

昨年8月に、JR宇都宮駅西側のLRT整備区間について公表しました。宇都宮駅東口停留場から駒生1丁目の栃木県教育会館付近までの約5キロの区間で、2024年内に軌道事業の特許申請を行い、2026年内に着工、2030年代前半の開業を目指してまいります。主要な停留場としては、JR宇都宮駅西口や宇都宮二荒山神社付近、東武宇都宮駅付近、桜通り十文字付近、護国神社付近とともに、栃木県教育会館から西の大谷観光地付近までの区間については、検討区間としております。



昨年11月26日に、JR宇都宮駅東口地区のまちびらき「記念式典」を交流拠点施設「ライトキューブ宇都宮」で開催いたしました。また、2日間にわたり開催した「まちびらきランドオープニングイベント」では、アーバンスポーツイベントやミヤミライ展、LRTの車両見学会などを催し、新たなまちの門出を華やかに演出しました。

このまちびらきにより、宇都宮市の歴史に新たなページが加わり、これからは「つくる」から「つかう」ステージに移行してきます。この記念式典には、地区全体のデザインを監修した建築家の隈研吾さんもご出席いただき、新幹線とLRT、コンベンション施設、ホテル、商業施設など、さまざまな機能がネットワーク化され「ヨーロッパにもない、コロナ後の新しいモデル」との評価をいただきました。

「ライトキューブ宇都宮」は、1階大ホールに最大2千人、3階中ホールに最大702人を収容でき、会議室は大小13室を備えており、昨年11月30日から一般供用を開始しております。

駅東側のバス路線が再編へ

本年8月のLRT開業に合わせて、JR宇都宮駅東側のバス路線が再編されます。LRTのトランジットセンターに接続する7路線が新設されるとともに、LRTとの乗り継ぎを考慮した運行ダイヤが編成されます。魚に例えるならば、背骨が



LRT試運転を開始

昨年の11月にLRTの試運転が始まりました。初日は車両基地から平石停留場まで約200メートルで入線試験から行われ、その後、午後9時からは、JR宇都宮駅東口の約4キロの街ナカを走る本格的な試運転を行いました。

totraでお得に乗継割引

昨年9月より、交通系ICカード「totra」を利用して地域内交通と路線バスを乗り継いだ場合に、2乗車目の公共交通の運賃から200円が割引となる「乗継割引制度」(地域内交通⇄路線バス)を開始しました。

令和3年6月に導入した、日中の時間帯に適用される「バスの上限運賃制度」と併用することで、市内のどこから乗っても乗り継いでも「街ナカ」まで500円以内で移動が可能となります。

また、LRT開業の際には、LRTと路線バス・地域内交通間の乗継割引制度の導入を予定しております。

世界のモデル都市へ、すべての公共交通の脱炭素化を目指す

2030年までに、LRTや路線バス、地域内交通など、本市を運行する公共交通の脱炭素化を目指してまいります。中でもLRTは、家庭ごみ等の焼却施設や家庭用太陽光など、市民由来の再生可能エネルギーによる運行を予定しております。また、EVや燃料電池自動車など電動車導入支援制度を創設し、民間のタクシードライバーの補助いたします。再生可能エネルギーの地産地消を推進する世界のモデル都市として、脱炭素化をけん引してまいります。



駅東口に送迎保育ステーション

昨年7月、JR宇都宮駅東口近くに、新しく「送迎保育ステーション」がオープンしました。この施設は、近隣の保育施設13か所と提携して最大50人までの送迎を担います。また、同フロアには定員19人の小規模保育施設もあり、施設内には保護者が子どもを預けている間に仕事ができる「コワーキングスペース」を県内で初めて備えております。

駅東口3年連続で評価額上昇

県内の路線価は13年連続で下落しましたが、宇都宮駅東口駅前ロータリーだけが3年連続で上昇しました。LRTの開業を控えて沿線にはマンションやオフィスの建設ラッシュが続いており、首都圏への通勤や出張にも便利で、さらにはコロナ禍によるテレワークの浸透で従来のオフィススペースが不要になり、移転先として注目が集まっております。

物価高騰対策

- [令和4年]**
- ★プレミアム付商品券「宮のトク×トクチケット」の販売
 - ★水道料金の基本料金(令和4年9月・10月請求分)の免除
 - ★学校や保育所等の給食食材費の支援
 - ★中小企業や農業者、医療機関、福祉施設等に対する支援制度の創設
- [令和5年]**
- ★水道料金の基本料金(令和5年2月・3月請求分)の免除
 - ★中小企業や農業者に対する支援制度の継続

<p>[対象] 医療機関・介護施設・障がい福祉施設・保育施設など</p> <p>原油価格・物価高騰対策支援金</p> <p>対象施設に応じて、7万5,000円・5万円・2万5,000円を助成</p> <p>対象となる事業者により異なります。市HPをご覧ください。</p>	<p>[対象] 直近1か月の売上高などが3%以上減少した事業者</p> <p>原油価格・物価高騰対策特別資金</p> <p>融資限度額は1年度当たり3,000万円。利率は0.5~0.6%(1年間の利子補給有り※令和5年3月末の申請まで)。融資期間は7年以内(うち据置期間1年間)。保証料補助額は全額補助(申込金額1,000万円以内)</p> <p>市商工振興課 TEL 028-632-2433</p>	<p>[対象] 県の中小企業者物価高騰対策支援金の交付決定を受けている事業者</p> <p>宮の物価高騰対策支援金</p> <p>中小法人は最大10万円、個人事業者は最大5万円を助成(令和5年3月20日まで)</p> <p>専用コールセンター TEL 028-632-5276(平日9:00~17:00)</p>	<p>[対象] 中小企業など</p> <p>事業者向け脱炭素化促進事業</p> <p>太陽光発電設備は出力1kW当たり5万円(出力10kW未満の設備に限る)を助成。その他、定置型蓄電池・給電性能を有するEVの導入を助成</p> <p>市環境政策課 TEL 028-632-2418</p>	<p>[対象] 認定農業者など</p> <p>園芸作物生産施設等整備事業</p> <p>施設整備費等補助=施設・機械導入補助上限額の引き上げ(引き上げは令和5年3月31日まで)</p> <p>市農林生産流通課 TEL 028-632-2466</p>	<p>[対象] 認定農業者など</p> <p>省エネ設備導入支援事業</p> <p>ヒートポンプ 保温カーテンなどの導入費を補助(令和5年3月31日まで補助率2分の1、令和5年4月1日から補助率10分の3)。最大100万円</p> <p>市農林生産流通課 TEL 028-632-2466</p>
---	---	--	--	---	--